

## 本年度の学校向け文化・芸術プログラムと 信州安曇野薪能関連事業について

### 1 協議の目的

- ・前回の総合教育会議で議論いただいた「安曇野の特色ある自然・文化・芸術に触れ、感性を高める教育の在り方」について、文化・芸術プログラムとしてとりまとめた（資料1）。このうち「能楽教室」に関する概要や手応えを報告する。
- ・「信州安曇野薪能」を地域の子どもたちにとって、親しまれ、関わりを持てるものにした。このことについてご意見をいただきたい。

### 2 能楽教室の概要等

#### ア 概要

- ・能楽は、日本の民話や神話、歴史上の物語を、独特の音楽・歌唱・リズム・舞いの動きによって表現する芸能。「能楽教室」では、その楽しみ方をわかりやすく解説している。
- ・能楽のもつ豊かな表現にふれるとともに、日本の伝統芸能の魅力を子どもたちに知っていただけるよう、毎年、市内小中学校で能楽教室を開催している（資料2）。

#### イ 実績等

年度	開催校	開催日時	参加者数
R3	堀金小学校	6月22日	5・6学年 全6クラス 3学年4クラス
	豊科北中学校	6月23日	
R4	明科中学校	6月21日	全校6クラス 6学年4クラス
	穂高北小学校	6月22日	
R5	明南小学校	6月20日	3～6学年5クラス 全校10クラス
	豊科南中学校	6月21日	
R6	穂高東中学校	6月18日	全校14クラス 5・6学年6クラス
	穂高南小学校	6月19日	
R7	豊科南小学校	6月17日	4～6学年 全12クラス 4～6年 全3クラス
	明北小学校	6月18日	

ウ 児童・生徒に対するアンケート結果（令和7年度、豊科南小/明北小）

キーワード	代表的な意見例	数
迫力・すごい・驚き	「戦うシーンがすごかった」「迫力があってすごかった」「本物を見ているような感じだった」「びっくりした」「芯の通った声がすごい」	95
昔・歴史・伝統・文化	「昔の物語の世界観や、昔の言葉などがとても良くわかった」「室町時代から続いている伝統の行事を見れて楽しかった」	90
衣装・お面・外見	「衣装などの手のかかり具合がすごかった」「20kg ぐらいの衣装を着て、独特の歩き方をしているのがすごい」「お面がかっこよかった」	35
言葉・セリフ・難しさ	「言葉はよくわからないが、歌の盛り上がり方などで、今この場面かわかった」「言葉はわからなかったけどお話が面白かった」「難しい言葉がたくさんあった。今度調べてみたい」「歌う言葉には縄文の言葉が多いと知った」	40
演技・表現・動き	「いろんなことを表現していたのがすごい」「演技をしている人以外にも協力している人がいて成り立っているんだなと思った」	40
土蜘蛛・糸・小道具	「土蜘蛛の糸を投げるシーンがすごかった」「土蜘蛛の話は昔から日本に伝わっていてすごいなと思った」「糸がめっちゃ飛んでてすごかった」	30
楽しかった・貴重な体験	「初めての体験だったので楽しかった」「能楽教室がとても楽しかった」「貴重な体験ができて良かった」「能楽でいろいろな物語を見てみたい」	50
難しかった	「眠くなってしまった」「少しよくわからなかったけど声とかがすごかった」	20
感動・印象的	「迫力を感じた」「感動した」「すごく感動的だったし見てて面白かった」	20
質問・疑問	「なぜ能楽を始めようと思ったのですか？」「糸を全部作るのに何日かかりましたか？」「土蜘蛛って名前なのに、なんで鬼なんですか？」	10

注：表中の「数」は概数。複数のキーワードを含むものはそれぞれにカウント

➡能楽教室に興味を持った児童が、こども能楽教室へ参加することになった。

### 3 こども能楽教室

#### ア 概要等

- ・安曇野地域で実施してきた薪能の活動を広く知ってもらい、能楽を通して子どもたちの豊かな感性をはぐくむことを目的として、平成21年から能楽師・青木道喜先生の指導のもと、小学生から高校生10～15名を対象に、能の舞いや謡（うたい）を学ぶ教室を行っている（資料3）。
- ・一人一人にあった曲目を青木先生が選定し、明科公民館を拠点として、月1回金曜日の放課後と土曜日の午前中に、一人ずつお稽古を実施。
- ・信州安曇野薪能の公演前に、能舞台で発表会を行っている。保護者や関係者のみならず、大勢の一般客にも見ていただく貴重な機会となっている。
- ・文化庁の補助金により実施しており、5月～8月は受講無料。その他の期間は、同好会実施となり一人1回につき先生への謝礼1,000円が必要となる。

イ 参加者等

	未就学児	小学生	中学生	高校生	合計
継続して参加	1人	4人	3人	3人	11人
新規参加		1人			1人
計					12人

#### 4 信州安曇野薪能と地域の子どもたちとの関わりについての現状と願い

(現状)

- ・「薪能」は、奈良・興福寺の薪献進に始まる神事であり、昭和25年の「京都薪之能」以来、全国各地で盛んとなったもの。「信州安曇野薪能」は、観世流能楽師の(故)青木祥二郎先生が故郷の明科で、平成3年より「水郷明科薪能」として始めたもの。質の高い伝統芸能鑑賞機会の提供、名誉市民の顕彰、地域の振興のための催しとなっている。
- ・現在は、御子息である青木道喜先生に主宰いただき、令和7年8月23日(土)に第34回信州安曇野薪能を開催する(資料4)。

・参加者の推移

		一般	大学生	高校生以下	合計
H30	第28回 能楽鑑賞会	438	6	10	454
R1	第29回 能楽鑑賞会	463	0	7	470
R2	第30回 能楽鑑賞会(中止)	—	—	—	—
R3	(実施なし)	—	—	—	—
R4	第31回 能楽鑑賞会	440	2	17	459
R5	第32回 薪能	480	3	8	491
R6	第33回 薪能	478	4	7	489

※第26回(平成28年)～第31回(令和4年)の間は、明科南認定こども園工事及びコロナ禍のため、豊科公民館ホールにて能楽鑑賞会として実施。



(願い)

- ・地域子どもたちには、明科出身の名誉市民である青木祥二郎先生の生涯や、明科で生まれた薪能に関心を持って欲しい。また、当日の鑑賞はもとより、準備運営の段階から参加できる仕組みを作り、故郷の文化・芸術に積極的に親しみ、明科を誇りに思う子どもたちを育てたい。

↓

本年度の「信州安曇野薪能」の演目が、子どもたちも親しみやすい民話であることから、この催しを地域子どもたちにとって、親しまれ、関わりの持てるものになりたい。このことについて、ご意見をいただきたい。

## 文化・芸術プログラム

分野	事業	概要	実施校
美術 歴史 民俗	あづみの学校ミュージアム	市内の公私立の美術館・博物館が協力して実施。各館の作品・資料を学校に展示し、対話を通して鑑賞を行う。子どもたちの感性を育み、郷土の先人や文化財を知るきっかけとする。	豊科北小学校 11月10日 豊科北中学校 12月10日 穂高東中学校 1月22日
	昔の暮らし in 博物館	穂高郷土資料館が冬季休館となる2月ころ、小学生を対象に同館所蔵の民具に触れてもらう企画を豊科郷土博物館で開催する。	市内小学校10校 (対象3学年、実施日未定)
	東京藝大 安曇野 AIR	市内に滞在する芸術家が学校でワークショップや共同制作を行う。	明北小学校 9月2日 (明科高校も参加予定)
美術	京都芸術大アートプロジェクト	子どもたちが、日常では接することのない芸術家と交流の機会となる。子どもたちの感性を育む。	南安曇農業高校(調整中)
	能楽教室	伝統芸能に触れ、楽しみながら古典への理解を深める。	豊科南小学校 6月17日 明北小学校 6月18日
音楽	ピアノ演奏アウトリーチ	国際的に活躍するピアニスト日南由紀子氏との交流を通し、感性を育む。音楽の楽しみ方を感じてもらおう。	穂高北小学校 11月19、20日
	0歳からのミニコンサート	未就学児とその保護者を対象としたコンサート。幼児が楽しみながら音楽に触れ、感性を伸ばす機会となる。	みらい 5月30日 研成ホール 10月4日
	東京藝大連携事業 楽器演奏指導	東京藝大音楽学部器楽科と連携。中学校の吹奏楽部の演奏指導のほか、リーダーズバンドを結成。 早春賦音楽祭にて演奏(5月)	早春賦音楽祭 5月11日 演奏指導 11月15、16日 2月7、8日 豊科公民館

分野	事業	概要	実施校
自然	ちくに生きもののみらい基金の活用	小中学校で行う安曇野の自然観察会を支援。	豊科北小、豊科南小、豊科東小6回、穂高南小、穂高西小、堀金小、明南小2回、豊科北中、穂高西中
自然写真	田淵行男賞写真公募ジュニア賞	第7回田淵行男賞ジュニア賞受賞作品の展示	ジュニア賞受賞 明科中1名・豊科南中1名 みらいで展示（8月5日～8月11日）後、学校へ巡回（予定）
地域学習	ふるさと探求	探究学習事業として地域の宝物を学ぶ。主催は NPO 法人安曇野ふるさと応援団。	明科中3年生、豊科南中3年生、堀金小3、4年生を対象に。また安曇野の時間推進委員の先生方を対象に。
読書支援	「デジとしよ信州」への登録	市町村と県とによる協働電子図書館「デジとしよ信州」の利用促進のため、教員用デモ ID の配布及び児童生徒の登録	○教員用デモ ID の交付 豊科南小・豊科東小・穂高南小・穂高北小・三郷小・豊科北中・堀金中 ○児童生徒用 ID の交付 豊科南小・豊科東小
学習支援	学校図書館・公共図書館の連携	団体貸出・配本の連携、中学生職場体験の受入	
その他	美術館・博物館の学校向けプログラム	校外活動に向けたプログラムの整備（各文化施設で実施）	

## 令和7年度「能楽教室」開催要領

## 1 趣 旨

安曇野市教育委員会では、能楽のもつ豊かな表現にふれるとともに、日本の伝統芸能の魅力を児童・生徒の皆さんに知っていただけるよう、毎年、市内小中学校で能楽教室を開催しています。

能楽は、日本の民話や神話、そして、よく知られた歴史上の物語を、独特の音楽、歌唱、リズム、舞いの動きによって表現する芸能です。能楽を間近に鑑賞する貴重な機会として、能楽教室を開催し、楽しみ方をわかりやすく解説します。

2 対 象 豊科南小学校 4～6学年 12クラス

3 会 場 豊科南小学校 体育館

3 日 時 令和7年6月17日(火)10:45～12:20

4 演 目 『土蜘蛛』の公演・所作や装束の解説

5 出 演 観世流能楽師 青木 道喜  
宝生流能楽師 小林 努  
青木 真由人  
立命館大学学生9人

6 協 力 明科青謳会 6～7人

合計 18名程度

7 問い合わせ 安曇野市教育委員会 教育部 文化課 文化振興担当  
電話 0263-71-2463 FAX 0263-71-2338

安曇野市教育委員会文化課文化振興担当  
課長：三澤新弥 担当：佐野順子、塩原理絵子  
〒399-8281 長野県安曇野市豊科 6000 番地  
電話：0263-71-2463/FAX：0263-71-2338

## 能楽教室 実施内容

### 1 スケジュール

#### (1) 前日準備 6/16 (月)

15:00 ごろ 資材搬入会場準備・舞台道具の製作

17:00 ごろ 会場準備完了

※舞台道具や仮設舞台の資材を体育館に置かせてください。

#### (2) 当 日 6/17 (火)

07:30 豊科南小学校 着

07:30~10:30 打合せ・会場準備(舞台組み)・着付け

10:45~12:20 能楽教室(第3校時~第4校時)

12:20~13:30 片付け

13:30 ごろ 豊科南小学校 発

### 2 会 場

(1) 会場の配置は、別紙1のとおりです。

(2) 前日準備の際、体育館に仮設舞台を設営します。準備終了後、能楽教室が終わるまで使用不可となります。部活動の朝練習や授業等との調整をお願いします。

(3) 公用車について

公用車を駐車させていただきます(バン3台、ミニバン2台、計5台)

(4) 控 室

ア 多目的ルーム、会議室(男女控室、昼食用)

### 3 準備品

物品	規格など	数量	備考
マイク	ワイヤレス(1本は有線でも可)	3本	会場(体育館)
マイクスタンド	低い物(出演者用)	2本	会場(体育館)
マイクスタンド	高い物(挨拶用)	1本	会場(体育館)
パイプ椅子		10脚	会場(体育館)
長机		4台	控室
椅子		5脚	控室
スリッパ		12足	玄関

#### 4 能楽教室シナリオ

着席

出演者入場（拍手）

- 1 開会 司 会： 教頭先生
- 2 学校長あいさつ（青木先生の紹介（別紙2））
- 3 青木先生あいさつ
- 4 「土蜘蛛」鑑賞（衣装、面の説明など） 進行・解説：青木 先生
- 5 質疑応答の時間
- 6 代表お礼のことば（\_\_\_\_\_）さん
- 7 閉会

出演者退場（拍手）

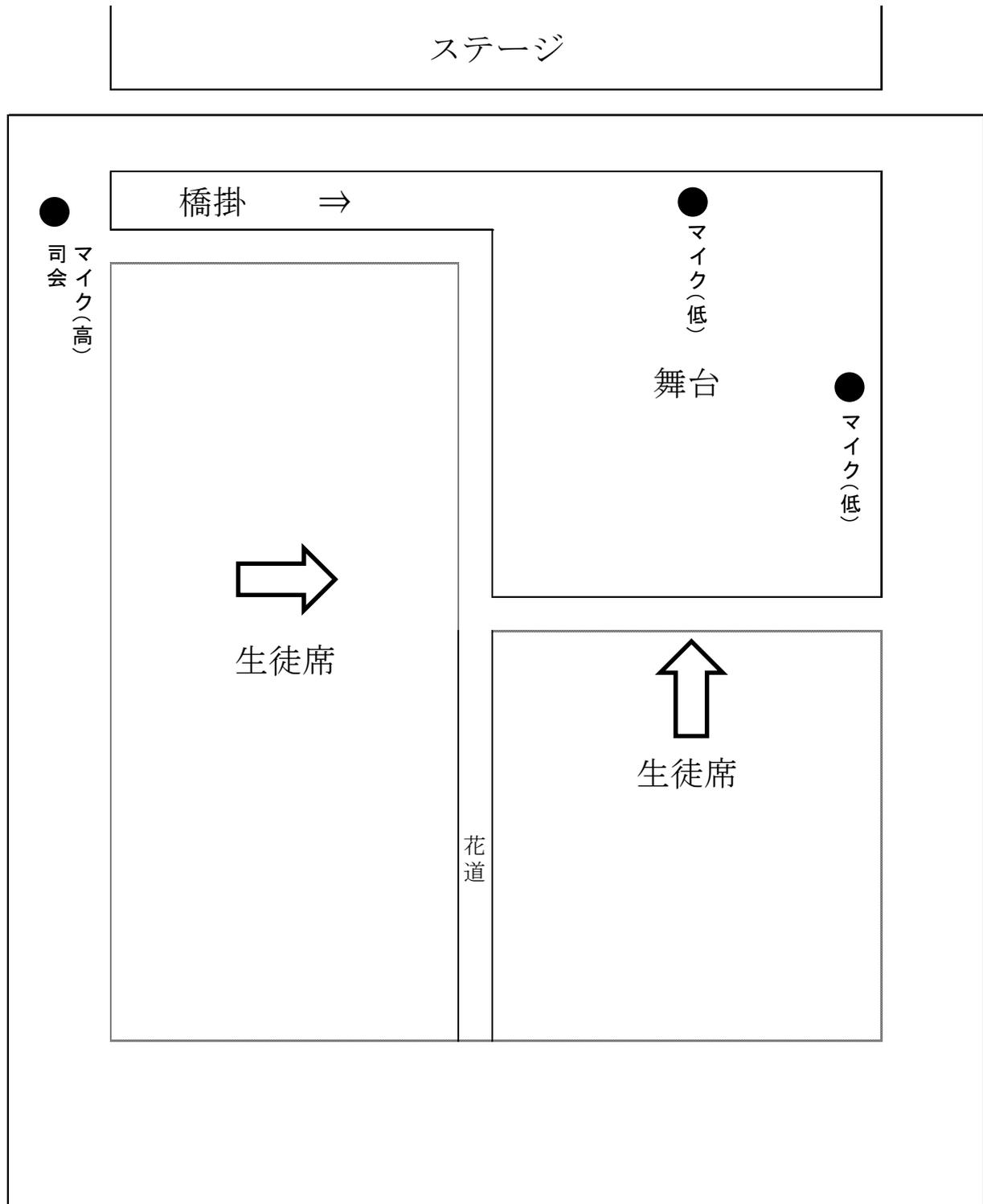
#### 5 注意事項

- （1）途中での休憩はとれませんので、事前にトイレを済ませてください。
- （2）時間中にチャイムが鳴らないようにお願いします。
- （3）写真撮影可ですが、フラッシュの使用は厳禁でお願いします。
- （4）教育委員の皆さんへも見学のご案内をします。
- （5）保護者の見学も可能です。学校の判断で周知をおねがいします。

#### 6 確認事項

- （1）当日のマスコミ取材の可否
- （2）代表あいさつ（1名）の選出
- （3）控室（現地確認）

能楽教室 舞台構成



中学校での実施の様子（令和6年度 穂高東中学校）  
能楽（土蜘蛛）の公演



装束などの解説会場の様子



会場の様子





# こども能楽教室

## 参加者募集！！



能の舞や謡(うたい)を楽しく学びます。発表会は、能役者と同じ薪能舞台で舞います。

### 対象

・対象：小学生・中学生

### 場所

- ・練習：明科公民館ほか
- ・発表：信州安曇野薪能特設舞台  
(明科龍門淵公園多目的広場)

### 講師

青木 道喜 先生 (観世流能楽師)

### 応募方法

- ・裏面の申込書を安曇野市教育委員会文化課へ提出してください。



(令和7年度)

## 安曇野子ども能楽教室スケジュール

日付	時間	内容
5月2日(金)	午後6時30分から午後7時30分ごろまで	開講式
5月3日(土)	午前9時30分から午前11時ごろまで	練習
6月6日(金)	午後6時30分から午後7時30分ごろまで	練習
6月7日(土)	午前9時30分から午前11時ごろまで	練習
7月18日(金)	午後6時30分から午後7時30分ごろまで	練習
7月19日(土)	午前10時から午前11時30分ごろまで	練習
8月8日(金)	午後6時30分から午後7時30分ごろまで	練習
8月9日(土)	午前9時30分から午前11時ごろまで	練習・衣装合わせ
8月10日(日)	午前9時30分から午前11時ごろまで	練習
8月21日(木)	午後6時30分から午後7時30分ごろまで	練習
8月22日(金)	午後5時から午後6時ごろまで	前日リハーサル
8月23日(土)	午後4時30分から(予定)	発表会
日程は後日連絡	午前10時から午後1時まで	閉講式

## その他

- ・練習への送迎は、保護者の方をお願いします。
- ・発表会では、浴衣が必要です。各ご家庭で準備をお願いします。
- ・練習には、靴下を履いてきてください。
- ・スケジュールは変更となる場合があります。

## 問合せ・申込先

安曇野市教育委員会 文化課 文化振興担当  
・電話 0263-71-2463  
・FAX 0263-71-2338  
・メール bunka@city.azumino.nagano.jp  
・〒399-8281 長野県安曇野市豊科6000番地

## 令和7年度 安曇野子ども能楽教室 申込書(4月25日✕)

(ふりがな)	生年月日
氏名	平成 年 月 日
保護者氏名	
電話番号	
住所	〒 -
写真利用について	子ども能楽教室及び信州安曇野薪能での発表会で、撮影されたご自身の写真利用を <input type="checkbox"/> 承諾します ・ <input type="checkbox"/> 承諾しません (○をしてください)

イベント保険に加入するため、氏名生年月日は必ず記入してください。御記入いただいた個人情報は、子ども能事業及び信州安曇野薪能事業以外の目的で使用しません。

安曇野市制施行二十周年記念

第三十四回

信州安曇野

# 新龍



◆能 菊慈童 片山九郎右衛門 宝生欣哉(人間国宝)

◆舞囃子 龍田 青木道喜

◆新作能 犀龍小太郎 茂山七五三(人間国宝) 茂山千五郎 茂山逸平 浦田保親 青木真由人 作 青木道喜 地頭 青木道喜

「新作能 犀龍小太郎」(青木道喜 作、鈴木美意 絵)

令和7年 8月23日 土 午後3:30開場 午後5:30開演 午後4:30から子ども能楽教室の発表 午後8:30頃終演(予定) 全席自由 (定員1,000人)

会場	安曇野市明科龍門湖公園 特設能舞台 〒399-7102 長野県安曇野市明科中川手2928-1 (雨天会場:明科体育館 仮設能舞台) 〒399-7102 長野県安曇野市明科中川手3167-1	⚠ 当日、会場を確認してからお越しください!	※当日、天候などを考慮して雨天会場での公演とする場合があります。必ず新能ホームページまたはお電話で公演会場を確認してください。
チケット販売	安曇野市観光情報センター/安曇野市穂高交流学習センター「みらい」/安曇野市豊科交流学習センター「きぼう」(7/31迄)/安曇野市三郷交流学習センター「ゆりのき」/安曇野市豊科公民館 安曇野市明科公民館/平安堂あづみ野店/明天堂書店/イオン豊科店/信毎メディアガーデン1階まちなか情報局(松本市)/池田町交流学習センターかえて/チケットぴあ Pコード:534343		
入場料	一般:[前売券]3,000円・[当日]3,500円 学生:(大学生等)1,000円・(高校生以下)500円		
問い合わせ先	信州安曇野新能実行委員会事務局(安曇野市教育委員会文化課内) 〒399-8281 長野県安曇野市豊科6000番地 TEL.0263-71-2463 FAX.0263-71-2338		

【主催】信州安曇野新能実行委員会 【共催】安曇野市・安曇野市教育委員会 【協賛】株式会社くま精機 【後援】長野県能楽連盟・長野県・長野県教育委員会・信濃毎日新聞社・朝日新聞長野総局・読売新聞松本支局・毎日新聞長野支局・中日新聞社・市民タイムス・大衆タイムス社・産経新聞社長野支局・MGプレス・NHK長野放送局・SBC信越放送・NBS長野放送・TSBテレビ信州・abn長野朝日放送・ANCあづみ野テレビ・あづみ野エフエム(公財)八十二文化財団・JR東日本長野支社



※軽食の販売があります。※換敷席ご利用の方は座布団をお持ちください。  
※雨の場合は明科体育館で行います。靴袋とスリッパをお持ちください。※会場にてスマートフォン字幕配信があります。



◆新作能 犀龍 小太郎 (さいりゅうこたろう)  
作 青木 道喜

茂山 七五三(人間国宝) 茂山 千五郎  
茂山 逸平 浦田 保親 青木 真由人 地頭 青木 道喜

安曇野がまだ湖だったころ、小太郎は人の子として育ちましたが、小太郎の母は、実は龍でした。耕す土地が少なく貧しい人々の暮らしを見かねた小太郎は、母の犀龍とともに共に岩を砕き、湖の水を抜き、平野を作る決心をします。父の白龍王が励ましに現れ、小太郎と母の犀龍が岩にぶち当たると湖の水は流れ落ち、安曇野に沃野が生まれました。

◆能 菊慈童 (きくじどう) / 片山 九郎右衛門 宝生 欣哉(人間国宝)

©渡辺睦子、『まんが能百番』(平凡社刊)



①中国・鄺県山の麓に霊水が流れ出るので、その源を調べるよう勅使が下り、



②勅使が鄺県山に赴き、山中に一軒の庵を見つけます。



③様子を窺っていると、中から慈童が現れ、



④互に、こんな山奥にいるのは化生の者だと怪しみます。



⑤そこで、慈童は、周の穆王に仕えていた侍童だと名の、



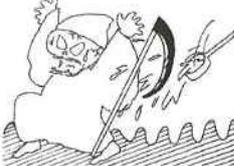
⑥勅使が周は七百年も前の世だと不審がると、



⑦穆王から賜ったという杖を見せ、



⑧そこに書かれた傷を菊の葉に写しおくと、その上にたまる露が不老不元の薬となり、



⑨それによって、七百年も生き延びていることを話します。



⑩そして、舞をまい、菊水を汲んで勅使に勧め、自らも飲み、



⑪七百年歳の寿命を君に捧げ、



⑫やがて、庵の中に入ります。

◆舞囃子 龍田 (たつた) / 青木 道喜

僧の一行が、龍田明神へ参詣するために龍田川を渡ろうとすると、一人の女が川を渡るなどと言い、龍田川の自然を称え、古歌を引いて僧たちを明神に導きます。女は明神に仕える巫女だと名乗り、僧たちに冬も鮮やかに紅葉する神木の紅葉を見せ、自分こそが龍田姫であると言いつつ姿を消してしまいました。僧たちが神に祈りを捧げていると、龍田姫が姿を現し、「神楽」の舞を見せると夜明けと共に姿を隠しました。



交通アクセス  
 ■JRご利用の場合  
 松本駅まで………新宿駅から特急で約2時間30分、名古屋駅から特急で約2時間  
 長野駅まで………東京駅から新幹線で約1時間30分、金沢駅から新幹線で約1時間30分  
 明科駅まで………松本駅から篠ノ井線で約13分、長野駅から篠ノ井線特急で約40分  
 ■無料送迎バスご利用の場合  
 JR豊科駅、JR穂高駅、JR明科駅、安曇野市明科龍門淵公園の間を運行いたします。  
 [1便]豊科駅 15:00 穂高駅 15:20 明科駅 15:50 [2便]豊科駅 16:00 穂高駅 16:20  
 明科駅は、1便以降随時運行します。※帰りの時刻は当日終演後お知らせします。

安曇野で日本の伝統芸能に浸る  
**新能鑑賞付き宿泊プラン!**  
 ご宿泊日: 8月23日(土)  
 宿泊施設、旅行代金は安曇野市  
 観光協会ホームページをご覧ください  
 観光協会HP インスタグラム

ご注意: ●会場までの送迎はお宿の出発を午後4時過ぎを予定していますので「こども能楽教室」はご覧いただけません。●お席は正面席(区分指定・区分内自由)をご用意します。●演目及び出演者は変更となる場合があります。●雨天の場合、明科体育館へ会場が変更となる場合がございます。●夕食弁当は会場にてお渡しいたします。●ご宿泊は1泊1朝食となり、お部屋タイプはおまかせになります。

【お申し込み・お問い合わせは】一般社団法人 安曇野市観光協会  
**TEL.0263-82-3133** <https://azumino-e-tabi.net/>  
 ■旅行企画・実施 長野県知事登録旅行業第3-540号 ■定休日/土・日・祝祭日

数量限定 新能弁当 1,500円(税込) 8月8日(金)までに要予約  
 【予約】0263-71-2463 (信州安曇野新能実行委員会)

【ボランティア募集】一緒に新能を支える仲間を募集しています。  
 ●内 容: 観客の誘導・チケットもぎり・アンケート回収等  
 ●募集期間: 5月22日(木)~6月20日(金)  
 ●応募方法: 文化課 文化振興担当へ、氏名・住所・電話番号をご連絡ください。  
 【電話】0263-71-2463 【メール】bunka@city.azumino.nagano.jp

## 報告第1号

### 穂高北小学校スクールバス北穂高線（狐島方面）の乗車基準見直しについて

令和6年6月市議会において「穂高北小学校狐島区スクールバス等の児童の安全確保を目的とした柔軟な運用についての陳情」が採択された。その後、現地視察や狐島区との協議を重ね、令和7年4月1日から乗車基準を見直すこととし、運用を開始している。なお、見直し後の乗車人員を確認したところ、バスの増便は不要であったため、予算の増加はない。

#### 1 陳情の趣旨

- ①穂高北小学校狐島区スクールバスの通学距離による乗車基準を緩和すること。
- ②スクールバス停留所は、児童が歩道を歩き安全に登下校できる場所を基本とすること。
- ③①・②は、状況の変化に応じ見直していくこと。
- ④全ての安曇野市立小学校のスクールバス運行について、必要に応じて見直しと改善を図ること。

#### 2 見直しの内容

- (1) 県道307号線の道路状況から北穂高認定こども園以遠から通学する児童のスクールバス乗車を認めることとした。
- (2) 横断歩道のない県道の横断をしなくても乗車できるようにバス停を新たに設定した。

#### 3 見直し前後の乗車人員

見直し 前 対象人 数	15 人	→	見直し 後 対象人 数	29 人	※マイクロバスの定員及び乗車率を考慮するとバス増便は不要 ※R7年度の狐島区児童数は29人であるが、アンケートの結果、乗車人員は22人（令和7年3月時点）。
----------------------	---------	---	----------------------	---------	---

#### 4 経過

令和6年6月	・6月市議会定例会に「穂高北小学校狐島区スクールバス等の児童の安全確保を目的とした柔軟な運用についての陳情」が提出され、採択された。
7月	・教育委員会にて現地視察 ・総合教育会議にて報告、意見交換 ・狐島区及び学校と協議
8月	・福祉教育委員会にて現地視察

12月	・安曇野市教育委員会としての方針を決定、道路状況を考慮し、乗車基準を見直すこととした
令和7年1月	・乗車基準を見直す旨、狐島区に回答。ただし新たに設置する「生産組合倉庫」バス停については、横断歩道のない県道の横断が発生すること等から狐島区にて見守り体制をとっていただくこととした。
2月	・狐島区より了承した旨の連絡 ・学校から該当児童の保護者に対して乗車希望アンケートを実施
4月	・令和7年4月1日から乗車基準を見直し、運用を開始

## 5 穂高北小学校スクールバスの乗車基準

### 【見直し前の乗車基準】（令和6年4月1日時点）

通学距離4 km以上であること。

#### 【穂高北小学校特例利用基準】（1）～（4）を満たす場合、利用を認める

- （1）所定のバス停まで徒歩で行けること。
- （2）登下校の際、相当の距離にわたり単独となること。
- （3）1・2学年の低学年児童であること。
- （4）通学距離が概ね3.5 km以上であること。

### 【見直し後の乗車基準】（令和7年4月1日から運用）

通学距離4 km以上であること。

#### 【穂高北小学校特例利用基準】（1）～（4）を満たす場合、利用を認める

- （1）所定のバス停まで徒歩で行けること。
- （2）登下校の際、相当の距離にわたり単独となること。
- （3）1・2学年の低学年児童であること。
- （4）通学距離が概ね3.5 km以上であること。

#### 【北穂高線特例基準】

県道 307 号線の道路状況を考慮し、北穂高認定こども園以遠から通学する児童はスクールバスの利用を認める。今後、県道 307 号線の道路状況が改善され、安全に徒歩通学できる状況になった場合は、通学距離 4 km未滿の児童は徒歩通学とする。

※下線が見直し箇所

【穂高北小学校のスクールバス路線】

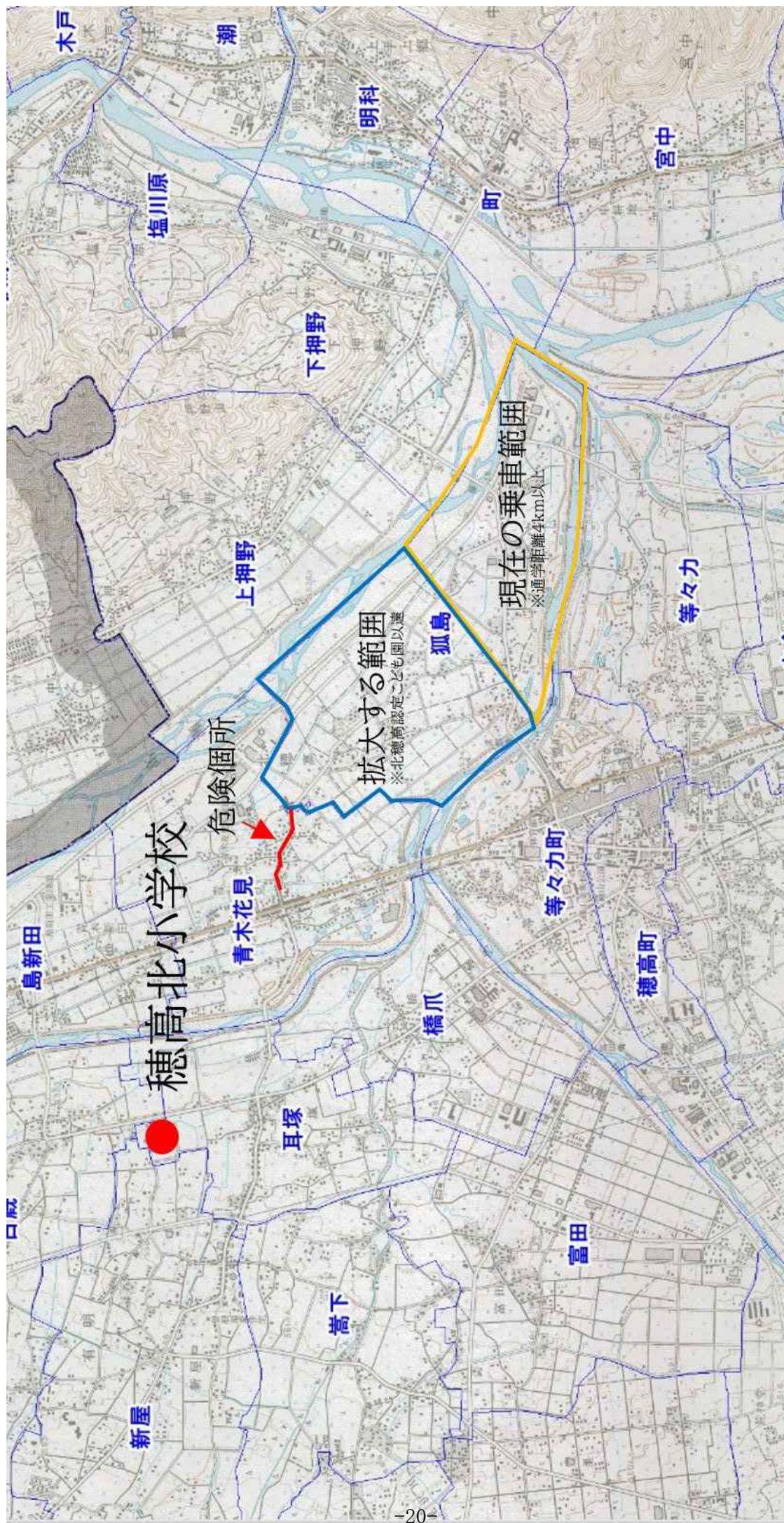
スクールバス路線は次の3路線で運用する。

【有明線①】 豊里方面 → 宮城・立足方面

【有明線②】 豊里方面 → 小岩嶽方面

【北穂高線】 狐島方面

# 穂高北小学校スクールバス北穂高線 乗車範囲図



【現在の乗車基準】 4km以上の通学距離があること。

【見直し後の乗車基準】

4km以上の通学距離があること。ただし、県道307号線の道路状況を考慮し、北穂高認定こども園以遠から通学する児童はスクールバスの利用を認める。今後、県道307号線の道路状況が改善され、安全に徒歩通学できる状況になった場合は、通学距離4km未満の児童は徒歩通学とする。

穂高北小学校スクールバス 北穂高線 路線図  
【登校便】(令和7年4月)



# 穂高北小学校スクールバス 北穂高線 路線図 【下校便】(令和7年4月)



穂高北小学校

<運行経路>  
(下校便) 学校-D-F-G-H地点まで  
時間は時間割により異なります。

D北穂高認定こども園

F下木戸公民館北(新)

H狐島会館(新)

G下木戸公民館(新)

## 小規模特認校制度の状況について

### 1 令和7年度小規模特認校制度による就学者数

1年生	4名
2年生から6年生	2名（3年生、5年生）
合計	6名

	見学申込書 交付者数	学校見学者数	体験入学者数	特認校 申請者数	就学者数
1年生	7名	7名	—	4名	4名
2年生から6年生	6名	5名	5名	2名	2名
合計	13名	12名	5名	6名	6名

### 明北小学校の児童数（小規模特認校制度による就学者を含む。）

	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	合計
児童数	10名	14名	14名	16名	17名	14名	85名

（令和7年5月1日現在）

### 2 令和7年度募集について

令和7年度は下記のとおり募集しており、募集人数は各学年「若干名」としている。

#### （1）スケジュール

4月	新1年生の募集開始
5月、6月	明北小学校にて明北オープン DAY（学校見学会）開催
7月	学校長面談及び小規模特認校への申込
8月頃	新1年生の就学決定
8月	新2年生から6年生の募集開始
9月	明北小学校にて明北オープン DAY（学校見学会）開催
10月	体験入学、学校長面談及び小規模特認校への申込
11月頃	新2年生から6年生の就学決定

#### （2）令和7年度募集の変更点

昨年度の募集では、全ての学年を同じ期間に募集し10月に就学を決定していたが、今年度の募集では、新1年生の就学児健診や来入児検査等の時期を勘案し、8月までに就学を決定するよう実施している。

新2年生から6年生の募集は、11月に就学を決定するよう実施を予定している。

### 3 小規模特認校となった明北小学校の様子

- ・小規模校の利点として、全校での活動がしやすい。全学年による縦割り活動があることで、転入学した子どもたちにとっては、学校全体に受け込みやすい環境にある。
- ・明北小学校では、小規模特認校制度により通学している児童の居住地の行政区がそれぞれ異なることから、学校での地区名を「あづみの」とし、他地区と同様に位置付けている。
- ・保護者から「通わせてよかった」という声をもらっている。また、在学している児童にと

っても他の地域から児童が来ることで人間関係が広がり、よい刺激になっているようである。  
・通学時に少しでも歩かせたいという声や居住地の地区活動への参加といった、小規模特認校となったことで、今まではなかった問合せや課題も見えてきて、学校では一つ一つ対応をしている。

(以上)